

# アメリカだより

## — その 2 —

三ヶ月ぶり、と言つても数年もアメリカにいるつもりがたつた三ヶ月で、三ヶ月ぶりとはおかしいのですが、日本から来た人たち、つまり視察の教育学の教授たちに会いました。横浜国立大学の中島太郎氏と、愛知学芸大学の伊藤四三九氏です。荏司雅子さんもこの人たちと同時にいらつしやつたのではないでしょうか。丁度サンクスギヴィングの休みで同居のアメリカ人の友達は家へ帰つていたので伊藤さんには僕のところへ泊つていただき、その他子供の教育を専門にして

いる金杉益男氏その他の方々二、三人に来ていただき、色々なことを語り合いました。アメリカの子供たちは日本と同じようにやんちゃでよくさわぐけれど、保母さんや先生がちよつと注意すると、すぐ言うことをきいて、のどをからしたりする必要がないことについて、どうしてだろうと言う伊藤さんからの問題のなげかけがありました。こうした

ことは教育施設だけでなく家庭教育の多大な影響だろうと言う結論になりました。たしかに家庭のお母様方は、みくおこつてばかりはいませんが、言いつけたことや注意したことについてはとても徹底させます。それに比べると、日本のお母様方は、おこごが多い割合に、徹底してないような気がします。僕は、アメリカではないけれど、子供の頃イギリスで育つて、そのしつけのきびしさは今でもはつきりおぼえている位です。子供は自由のびやかか、育つべきで口やかましいのはいけません。口やかましいこととしつけを混同しないことはとても大事なことです。

その他色々教育問題にふれたのは勿論のことですが、ここではアメリカの若い女性たちについて語り合つたことを紹介しましょう。この本をお読みになるうちにはきつとこの女性たちと同じ位の若い保母や先生方が多いと思います。皆さんはアメリカの女の人をどう思いますか。レディー・ファーストの国で、いばつていてとつつきにくくて、デイトのことはばかり考えていて、と言つた先入感はいぶかわつてしまうものです。僕もしばく

デイトをもつて、若いお嬢さんと遊びに出かけますし、その時は、車でおくりむかえをしたり、レストランではオーヴァーをぬがせてあげたりして、日本流に考える。まあなんてアメリカン、ガールはいばつているのでしよう、と言つことになりませんがそれは形式上のことで、どんなに真面目に色々なことをこうしつた若い女性たちと語りあつたかわかりません。そうしてみんなそれぞれの意見をもつてとても興味深いのです。僕は来たての時には、以外にも、若い女子学生に生活上の親切なアドヴァイスを得たり、語学のハンディキャップを助けてもらつたりしました。

そんなことを日本からいらつしやつた他の先生方にお話して同じ御意見を頂きました。女の人ばかりでなく、男の人、全て明るい微笑につつまれていて、なにかほの暖かい雰囲気です。そうして礼儀正しいのです。そう言つたことは、子供の頃のしつらけにずい分依存していると思います。時に、そのことに関係があるかないかわかりませんが、アメリカの子供たちは、とんぼとりのような生物を殺す遊びをほとんどやらないことを皆さんは御存知ですか。

